

平成28年度 学校評価総括表

奈良県立軟傍高等学校 (定時制)

教 育 目 標		日本国憲法・教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人権の尊重を基底とした民主的な社会の形成者としての必要な資質を養い、豊かな文化の創造に寄与する心身ともにたくましい生徒の育成をめざす。				総 合 評 価	
運 営 方 針		知・徳・体の調和のとれた、自主的・創造的で心身ともにたくましく活力ある生徒を育成する。				B	
平成27年度の成果と課題		本 年 度 重 点 目 標		具 体 的 目 標			
定通併修制度を設け、三修制によって3年生6名が卒業した。本年度もさらに多くの生徒の学習ニーズに応えられるよう、希望生徒は三年間で卒業できるように取り組ませたい。 生徒の日々の生活実態を把握し、適切な支援を行い、基礎学力の向上や基本的生活習慣の確立を目指す取組を継続したい。		規範意識の向上を図る。		基本的な生活習慣の確立を図る。 社会のルールやマナーを身に付けた生徒を育成する。			
		自他を尊重する心の育成を図る。		各生徒の悩みや課題の把握と理解に努める。 お互いを支え合い、信頼し合える人間関係づくりに努める。			
		基礎・基本の定着と進路希望の実現を図る。		確かな学力を身に付けさせるため、魅力ある授業を行う。 将来を見通した進路希望の実現に努める。			
		教職員の資質と指導力の向上を図る。		授業公開や研修会などを積極的にを行い、自ら指導方法の改善に努める。 常に研鑽に努め、自ら資質の向上を図る。			
具 体 的 目 標	具 体 的 方 策 ・ 評 価 指 標	自己評価結果	成 果 と 課 題	改 善 方 策 等	学 校 関 係 者 評 価		
教 務 部	観点別評価を利用した指導と評価の一体化について研修を深める。	多様な生活実態、学習歴をもつ生徒に対して、適切で柔軟な観点別評価の視点を取り入れることで、指導の改善につなげる。	B	シラバスを見直すことで、観点別評価の視点を再確認することができた。次期学習指導要領改訂の方向性を踏まえた学習評価を通じて、さらなる授業や指導計画の改善に努める。	地域等の外部の人的資源も含めて活用しながら、教科横断的な視点で、教育目標の達成に必要な教育の内容を効果的に教育課程として編成していくよう努める。	意欲がある生徒には3年で卒業できるように指導してほしい。	
	生徒が主体的に学習に取り組み体制を確立する。	高認試験の科目合格や定通併修など学校外の学習活動の単位認定を行い、多様な学習意欲に対応する。	A				3修制によって4名が本校の課程を修了した。さらに生徒の学びのスタイルに合わせた指導の充実にも努める。
生 徒 指 導 部	基本的生活習慣の確立を目指す。	遅刻・早退届記入時に必ず声を掛け、理由を聞く。欠席連絡のない場合は家庭・職場等に連絡する。	A	遅刻・早退時の声かけを徹底した。欠席時は担任より家庭・職場への連絡を行うことができた。	今後も生徒への連絡等を徹底していく必要がある。	今後も欠席・遅刻が少なくなるような取組を続けてほしい。	
	規範意識の向上を目指し、集中・安心して学べる学校づくりを目指す。	校門での立哨、通学路の巡視を行う。 授業中の携帯電話の使用禁止を徹底する。	B	立哨、定期的な巡視を行うことができた。 携帯電話を使用し、注意されることがあった。	携帯電話(スマホ)のルールを徹底していく必要がある。	今後もしじめのない学校づくりをしてほしい。	
	生徒の情報を全職員が共有し、様々な事態に迅速に対応できるようにする。	夕礼、会議等で生徒の情報を共有し、迅速に対応できる体制を整える。	A	生徒の情報を迅速に共有することができた。	今後も会議等で生徒の様子を共有することが大切である。		
進 路 指 導 部	一人ひとりが自らの適性について気づき将来の希望の実現に向けて前向きに学習する態度を養う。	進路についての情報を集めて積極的に考えてみる。 自らの適性について考える機会をもたせてみる。 夏休みを利用して進路先の見学に参加し知識をもつ。	B B B	自ら考えて熱心に資料集めをする生徒が見受けられる。 自分の長所について考えたり適性に気づいた生徒がいる。 実際に経験してみても学ぶことが多く知識として習得している。	ハロ・ワークに協力してもらい情報交換するなかで計画的な指導を行い生徒の希望を実現する。	生徒の適性に応じた進路の実現を目指して取り組んでください。	
	人 権 教 育 部	幅広い情報の中から、多様な価値観を理解させ、自分や他人の人権をお互いに尊重できる実践力を身につける。	コミュニケーションを大切に、互いの違いを正しく理解し、明るいなかま作りをする。 人権講演会や映画会を通して人権について考え、自らの体験に基づいた人権作文を書かせる。 毎学期、職員による人権教育研修を実施する。	B B B	各学年ともクラスが落ち着いてきて、お互いに明るく話をするようになってきた。 講演会には、しっかり集中して講師の話をきくことができた。 講師の選定には苦労した。	全学年が一緒になって行事に取り組めるような機会を増やして、学年間の壁ができないようにしたい。	他人を思いやることのできる生徒を育ててほしい。
		保 健 体 育 部	体育的行事を行い、生徒間の交流を深める。	スポーツ行事を年2回実施する。	A	例年と同様にスポーツテスト・ボウリング大会を実施し、ある程度学年を超えて、生徒同士の交流を深めることができた。	目標の設定をより明確にし、より多くの生徒が自ら参加できるよう努める。
自らの身体の健康について理解させ、健康の保持増進を図る能力を育成する。			スポーツテストを実施し、各自の運動能力を自覚させる。 身体測定や健康診断の結果をもとに、自分の身体状況や健康状態を把握させ、健康な生活を行うよう指導する。	B B	全生徒に実施することができなかったが、自分の運動能力に興味・関心を持たせることができた。 自分の健康状態を把握できている生徒が多いが、健康な生活を実践できていない生徒へ、指導を行った。	健康的な生活習慣の確立を目指し、自らの体調管理と運動、食事や睡眠の重要性を本人が自覚・実践できるように指導していく。	
一 学 年	基本的な生活習慣を確立し、高校生としての自覚をもたせる。	保護者との連携を密に取り、欠席・遅刻・早退を減らす。	B	欠席や遅刻連絡は学期が進むにつれてよくなるようになった。	保護者との連絡や相談の機会を増やすようにする。		
	挨拶や礼儀・マナーの向上を図る。	様々な場面で挨拶や礼儀・マナーについて具体的に指導し、不十分であった場合にはその場で指導する。	B	教室内の整頓やゴミの分別ができるようになってきた。	公共物を大切にしたり全日制との教室併用について考えさせる。		
	生徒が教員に相談したり、話しやすい環境づくりに努める。	日頃から積極的に生徒への声かけを行う。生徒とのコミュニケーションを図り、生徒の些細な変化を見落とすことなく、対応できるようにする。	B	SHRなどを利用して生徒が積極的に相談できる雰囲気を作ることができた。	始まりと終わりのSHRを利用して生徒ひとりひとりに声をかける。		
二 学 年	自らの進路について、意識づけを行う。	HR活動や個人面談を通じて、積極的に進路の情報を提供し、進路選択の重要性を、生徒自らが積極的に考えられるようにする。	A	三者面談などを通じて将来の進路について考えることができる生徒も出てきた。3名が三修制に挑戦している。	将来の進路について考える機会をHRなどを利用して増やして行きたい。進路関係の情報を積極的に伝える。		
	学校生活での規範意識の向上を図る。	SHRや授業での起立・礼の徹底や挨拶など授業を受ける態度の指導を行う。	B	自分から進んで挨拶が出来る生徒も出てきたが、まだまだ十分とはいえない。	日直の仕事を通じて与えられた仕事に責任を持つよう指導する。何度も声かけをして、挨拶ができるようになる。		

	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策 ・ 評 価 指 標	自己評価結果	成 果 と 課 題	改 善 方 策 等	学 校 関 係 者 評 価
三 学 年	基本的な生活習慣を確立して、規範意識を高める。	基本的なルールやマナーを指導する。	B	B ルールやマナーを守って行動できるようになってきた。 授業を大切にすることが習慣化してきている。 社会へ踏み出す自覚が強くなってきている。	自分を律しながらさらに徹底できるようにしたい。	
	確かな学力を身につけさせる。	学び方を指導する。表現力を高めさせる。	B		授業中、自発的に集中できるようにしたい。	
	進路について方向性を確立させる。	具体的な情報を提供し、考えさせたり、選択させる。	A		自分で求人情報を収集できるようにする。	
四 学 年	最後の高校生活の充実と、進路の実現を図る。	社会人として必要な生活態度・礼儀やマナーとともに、最上級生として責任ある言動を身に付けさせる。	B	B 最低限の生活態度・礼儀やマナーを身につける事はできたが、それらの向上を図ることはできなかった。 面接だけでなく授業前後の時間を利用して生徒の希望や目標を聞き、それに向けた心構えや行動の指導を行った。	生徒の言動や変化に注意を払いながら、生徒の理解を図ることが大切である。	
		進路情報伝達や進路相談を行い、生徒の主體的な進路実現ができるよう指導する。	B		卒業後は自分の判断で選択・決定をしなければならぬので、主體的に行動できる生徒を育てる。	
国 語 科	漢字の習得に対する関心を高め興味をもたせる。	自分の考えを文章を書いて上手に表現してみる。	B	B 読み書きを大切に学ぶことに興味を感じている。 コミュニケーションを図り意志の伝達を大切にしている。	自分で取り組む姿勢をしっかりと身に付けている。	
	コミュニケーションを図り意見の交流を大切ににする。	理解してわかることのおもしろさを感じて自ら取り組む。	B		相手の立場を考えての会話を心がけている。	
地 理 ・ 歴 史 科	生徒にとって身近なことから、興味や関心をもちさせる。	各種メディアの資料、視聴覚教材の積極的活用を図る。	B	B 地理の授業を中心として視聴覚教材の活用が進んだ。地図帳を進んで見れるようになってきた。 諸外国の事物や文化について興味や関心を引き出すことができた。 高卒認定試験について意欲的に考える生徒が出てきた。	今後も引き続き視聴覚教材の活用を進め、興味や関心を高めるようにする。 歴史的な出来事について時系列で理解できるような学習を工夫する。 これからも高卒認定試験の校内での説明会等に積極的に参加させる。	
	時代や国々による相違点を認識させる。	美術・文学・音楽等の教材を取り入れ、文化的教養を高めることを目指す。	B			
	歴史認識を基礎に幅広い知識を身につけさせる。	考えや思いを文章化できるようにすることを目指す。高卒認定制度の受験対策を併せて実施する。	B			
公 民 科	生徒が授業に興味・関心を持つように、時事問題を適時取り入れ活用する。	最新のニュースや統計、情報などに注目し、授業に活用可能な話題を積極的に取り入れる。	A	B アメリカの大統領選挙の例などを取り入れ世界の大きな出来事に興味や関心を持たせるようにした。 都道府県や市町村の位置や主な産業などについて紹介することができた。知識としての定着は不十分であった。 18歳選挙年齢などを題材として授業の中で取り上げることができた。少ない時間ではあったが、4年生を中心に考える事が出来た。	これからも具体的な人物名などを出すことにより、テレビや新聞のニュースに今後も関心を持たせるようにする。 将来生活する上で必要になるであろう事柄や知識を学習プリントや授業の中で質問を増やすなど、繰り返し指導する。 これまで実際に選挙投票に行った生徒の話などを授業のなかに取り入れる。「私たちが拓く日本の未来」の教材の活用を図る。	
	基礎的知識の習得を図るため、教材や資料を精選する。	都道府県の位置や県庁所在地など、基礎的な知識の定着を図る。プリント教材等の活用を積極的に取り入れる。	B			
	現代社会の問題や課題を、主體的に学ぶ視点を養う。	討論や意見交換などを通じて、自ら問題に対応する力を身につける。	B			
数 学 科	基礎的な技能の習得を図る。	かなり基礎的な内容から説明する。	A	B 基礎的な学習に絞り、範囲を拡げた。 空欄を埋める形式の発問(板書)が有効であった。	基礎的な内容を含めながら、多くの項目を少しずつ取り組むようにする。	
		自らの手で問題を解く習慣をつける。	B			
理 科	基礎・基本的な内容の習得を図る。	ノートの取り方の指導や振り返り学習を重点的に行う。	A	B ノート点検とプリントによる復習を定期的に行うことができた。 身近な話題や実験、視聴覚教材を用いた授業を展開することができた。	今後もノートの取り方や振り返り学習を継続していく必要がある。 学年によって授業の展開に差があったので、可能な限り改善していく	
	科学への興味・関心を引き出し、科学的な思考力を養う。	科学ニュースの話題や演示実験、視聴覚教材を授業に適宜取り入れる。	B			
保 健 体 育 科	授業を通して集団の一員であることを理解させる。	集合・整列等の集団行動を実施し、迅速な行動を身につけさせる。	B	B 整列・挨拶等ある程度習慣化することができたが、一部の生徒に徹底させることができなかった。 球技を中心に、運動することの楽しさを感じさせることができた。	引き続き、けじめをつけることの大切さを理解させ、必要な集団行動を身につけさせていきたい。 さらに、自らの積極性も身につけさせていきたい。	
	運動をすることで楽しさや喜びを味わうとともに、出来た時の達成感を体験させる。	主として球技種目を実施し、生涯に渡って運動を続けていける力を身につけさせる。	A			
芸 術 科 (書道科)	書の基礎的な表現力を養う。	古名蹟を手本にして習わせる。	B	B 一年間で自分の上達ぶりを実感している生徒が多かった。 生徒が表現したいことばや表現を考えさせることができた。	少人数のため、生徒ごとに課題の難易度を変えることも考える必要がある。 2字や4字だけの臨書だけでなく、複数の文字を練習する時間をもうけ、表現の幅を広げられるよう工夫する。	
	書を通して自己を表現する。	漢字仮名交じりの書を書かせる。 基本的な表現力を定着させる。	B A			
英 語 科	英語に対する苦手意識をなくすため、自らが積極的に参加できる楽しい授業を工夫する。	表現活動を取り入れ、生徒が興味をもって学習できる授業形態をつくりだす。	B	B まじめに授業を受けている。積極的に取組めるようにする。 ノート提出や小テストの完成は各自きちんとできている。	正しい発音で、正確に意味をつかんで理解させたい。 自分の学習スタイルを確立し、積極的に学習させたい。	
	学習内容の基礎・基本を定着させる。	復習に力をおき、学習内容を確実に定着させ積み上げていくようにする。	B			
家 庭 科	生活に関する基礎的・基本的知識と技能を習得させ、人との関わりの中で、生活者としての自覚と責任のある人間を育てる。	食育を中心に家族、保育の重要性を認識させ、賢い消費者としての実践力を身につけさせる。 特に、主體的な消費、行動、消費者の権利と責任、資源、環境など、ライフスタイルを考える力を育てる。	B A	B 一般的に、自己中心的なものの見方・考え方で、思慮浅く、「今を生きていること」への真実味が乏しい。 自分中心の活動には積極的に、ある程度評価できる。この生活力を伸ばしていきたい。	実習を多く取り入れ、自らが問題を発見・解決できる力をつけたい。実習の場の確保と生徒の環境に即した課題研究が必要となる。	
	情報社会に適切に参画できる能力・態度を育てるとともに、情報機器を効果的に活用できる力を身につけさせる。	情報に関する倫理的態度と安全に配慮する態度を養う。	B			
情 報 科		情報機器を活用して、効果的なコミュニケーションを行う能力を養う。	B	B SNS活用の注意点を学ぶことで、情報に関する倫理的態度や安全に配慮する態度を養った。 スマホとタブレットの両方を使うことで、双方の有効性を確認しつつ、効果的なコミュニケーション能力の涵養を図った。	情報機器をある程度活用できているが、実際に必要な情報を読み解く力や適切なコミュニケーション能力は十分とは言えない。判断力・表現力の向上を目標とした授業の改善に努める。	
			A			
商 業 科	ビジネス活動に必要な知識や技能を習得させ、社会人として必要な素養の涵養をはかる。	基礎・基本を重視し、問題演習をとおして知識の定着をはかる。	B	B 各科目ともに、毎時間の継続的な問題演習を積み重ねることができた。 電卓やコンピュータなどの計算用具を利用して、計数的にビジネス活動を理解させることができた。	今後も、継続的な問題演習を積み重ねるとともに、小テストを実施することで、より習熟を深めさせたい。また、希望生徒には検定・資格取得についても取組をさせていきたい。	
		ビジネス活動を計数的側面から理解させる。	B			